

●編集後記●

日本保育協会事業部長 福田武比古

日本保育協会は、毎年、国庫補助事業として厚生労働省の委託を受けて、「保育所の保育内容に関する調査研究」を実施しています。

この事業は、保育所における保育内容について調査研究を行い、保育所保育の充実と向上に資することを目的とするもので、本年度は「延長保育・一時保育の研究」という課題を設定し、先駆的にこれらの保育活動を展開している保育園に実践研究をしていただき、その報告を受けて本報告書をまとめました。

近年、子育てをめぐる環境は大きく変化しています。核家族化、都市化、女性の社会進出・就労の拡大等に伴い、保育ニーズはますます多様化しています。

就労時間や通勤時間の長時間化に合わせた「延長保育」、保護者の急な傷病・介護・出産・冠婚葬祭・非定型的就労・リフレッシュ等に対応する「一時保育」といった保育サービスへのニーズが高まっています。

「仕事と子育ての両立支援」が保育所に課せられた社会的役割ですが、その期待に応えるためには、それぞれのニーズにフィットするきめ細かな保育サービスを提供する必要があります。

先の児童福祉法の改正以来、保育所は選ばれる時代を迎えて、より良質な保育を実施することが求められています。延長保育・一時保育も、各保育所が創意工夫してその保育内容を高める努力をしています。

この報告書には、延長保育や一時保育を始めた動機、保護者や地域社会の反応、保育の実際・課題等について、全国各地を代表する保育所の実践記録が掲載されています。ここに収録されている良質な保育サービスの事例は、私たち保育関係者に感銘を与えてくれるだけでなく、保育についての様々なヒントや思いがけない知識を提供してくれます。これらの貴重な知識や体験の記録が、保育関係者の皆様の保育活動・保育所経営の充実・向上にいささかなりともお役に立てば幸いです。